

電力・原子力・エネルギー：静岡ステークホルダー勉強会

主催：電気新聞

企画・運営：リテラジャパン

〈概要〉

日時	1回目 4月25日(土) 10:00~13:00 2回目 5月23日(土) 10:00~13:00 3回目 6月(調整中) 10:00~13:00 (3回目の会議内容は新聞等のメディアに限定公開します)
場所	静岡県コンベンションアーツセンター(グランシップ) 〒422-8005 静岡県静岡市駿河区池田79-4
参加者	静岡県在住の方 約20名 ※1回目と2回目の両方に参加できる方。その中から数名の方に代表として3回目の会議に参加していただきます。
目的	市民と専門家(または事業者)が対話することで、お互いがもつ情報のずれを検証します。結論ありきの議論ではなく、対等な立場から率直な対話を行い、相互理解を図ることを目指します。
テーマ	(1)「リスク」とは何か (2)放射線の影響 (3)福島の実況 (4)防災や避難情報・計画の伝達 (5)市民の科学リテラシー
主催	電気新聞(一般社団法人日本電気協会 新聞部)
企画・運営	リテラジャパン(株式会社リテラシー) http://literajapan.com

1 回目（第 1 回準備会議）

日時	4 月 25 日（土） 10:00～13:00
場所	静岡県コンベンションアーツセンター（グランシップ）9 階会議室 904
内容	<p>(1) 原子力発電所の安全性の考え方 講師：山本章夫氏（名古屋大学大学院）</p> <p>(2) リスクリテラシー 講師：西澤真理子（リテラジヤパン）</p> <p>(3) メディアからの疑問点 講師：斗ヶ沢秀俊氏（毎日新聞）</p>

2 回目（第 2 回準備会議）

日時	5 月 23 日（土） 10:00～13:00
場所	静岡県コンベンションアーツセンター（グランシップ）10 階会議室 1002
内容	<p>(1) 放射線の考え方 講師：松本義久氏（東京工業大学大学院）</p> <p>(2) 事業者が考えること 講師：中部電力</p> <p>(3) メディアからの視点 講師：小島正美氏（毎日新聞）</p>

3 回目（本会議）

日時	6 月（調整中）10:00～13:00
場所	調整中
内容	準備会議に参加した静岡県民の方から数名が代表として参加し、研究者と事業者を交えて議論する。

タイムスケジュール（準備会議）

10:00～10:05	主催者・企画担当責任者あいさつ
10:05～10:35	講演(1)
10:35～10:45	質疑
10:45～11:00	講演(2)
11:00～11:05	質疑
11:05～11:30	講演(3)
11:30～11:50	質疑および休憩
11:50～12:20	グループ討論（疑問点の洗い出し）
12:20～12:35	グループ発表
12:35～13:00	講師との議論
13:00	閉会（その後、昼食をとって解散）

タイムスケジュール（本会議）

10:00～10:35	主催者・企画担当責任者あいさつ
10:35～10:50	「市民の意見・疑問」発表（県民参加者の代表）
10:50～10:55	論点の確認（西澤）
10:55～11:30	自由討論（前半）
11:30～11:35	休憩
11:35～12:30	自由討論（後半）
12:30～12:40	参加者からそれぞれ一言
12:40	閉会（その後、昼食をとって解散）

※「市民の意見・議論」は本会議開催前に事務局と県民参加者の有志が中心となってまとめる。

※ 3 回目の本会議は、リテラジャパンが隔月で開催している「場の議論」のスタイルを取り入れます。 【参考】 <http://literajapan.com/work/discussion>

■ 「電力・原子力・エネルギー：静岡ステークホルダー勉強会」事務局

(有)アルパシエ 小澤

e-mail: panel@literajapan.com

■ 責任者：リテラジャパン代表 西澤真理子

e-mail: nishizawa@literajapan.com

専門：リスクコミュニケーションとリスク政策。ロンドンインペリアルカレッジ PhD。

現在、日本学術協会連携委員、東京大学非常勤講師、文部科学省、総務省、厚生労働省、東京消防庁などの専門委員会委員、Stuttgart 大学研究フェロー、ディアロギック研究スタッフを務める。

欧州での 10 年間の参加型の意思決定過程の研究と実践で、多数論文がある。日本ではリテラジャパンの活動を通し、市民、メディアなどが参加するリスク議論の実践やビジネスコンサルテーションを数多く手がける。2011 年度福島県飯舘村リスクコミュニケーションアドバイザー。

■ アシスタント：笠松和也（東京大学大学院 修士課程 2 年）

2011 年福島県飯舘村でのリスコミに参加した経験があり、企業へのコンサルティングのアシスタントも務める。

■ 参考文献

西澤 真理子（2013）リスクコミュニケーション、エネルギーフォーラム新書。

西澤 真理子（2014）原発からの避難住民へのリスクコミュニケーションのあり方：

2011 年の福島原発事故を検証して、第 10 回メディア情報検証学術研究会講演論文集、38 - 48.

西澤真理子（2003）「社会土壌が参加型リスクマネジメントに与える影響：ドイツでの事例を基に」『社会技術研究論文集』1 (1), 133-140.

西澤真理子（2002）「市民に科学技術が評価できるのか：遺伝子診断に関するドレスデン・コンセサス会議」岩波書店雑誌『科学』72:9,861-5.

西澤真理子（2006）「科学者が科学を語る」科学技術振興機構：独立行政法人防災科学技術研究所。